

教育委員会だより

町内小学校児童と市浦小児童が相互訪問 平成27年度友好市町村学校間交流行われる

友好市町村交流事業の一環として五所川原市立市浦小学校児童と町内各小学校児童が相互に訪問する交流事業が行われ、町内小学生は6月18日、19日に市浦小学校を訪問し、市浦小学校からは、9月3日、4日に来町しました。

市浦小学校への訪問

6月18日～19日

町内各小学校の5年生40人が市浦を訪問し、地元小学校5年生が温かく出迎えました。

この日、初対面となった児童たちは、はじめに市浦小の児童が学校や市浦の紹介をしたり、特産のシジミ貝の生態などを発表したほか、「十三の砂山まつり」で行われる踊りを披露すると上ノ国の児童から大きな拍手が送られました。その後、自己紹介を兼ねたゲームを通じて打ち解けあい、交流記念品作りでは絵馬作りを体験しました。材料の加工は木材工芸センターへ移動して作業し、



市浦に訪問した児童

仕上げは市浦小学校に戻り行いました。この出来上がった絵馬には、お互いの児童が一緒に描いた絵や自分の将来の夢などが書かれていました。

市浦小学校PTAの皆さんが用意したカレーライスや特産のシジミを使ったシジミ汁などの夕食と一緒にいただいて、この交流は終了となりました。児童たちは上ノ国での再会を約束していました。

市浦小児童の来訪

9月3日～4日

2日目は、十三湖でのシジミ採り体験をした後、帰路につきました。

市浦小学校からは5年生児童16人が来町しました。一行ははじめに勝山館跡ガイダンス施設や旧笹浪家住宅などの文化財施設を訪れました。ここでは、市浦と上ノ国との繋がりを上ノ国の歴史の一端に触れました。続いて訪れた栽培漁業総合センターでは、アワビやエゾバカ貝の育成の様子を見学しました。



市浦から来町した児童

その後、上ノ国小学校へ移動し、児童同士の交流が行われました。児童たちは、三ヶ月ぶりの再会とあつてか、お互いの顔を見た瞬間に笑顔がこぼれていました。はじめに、各学校ごとに発表が行われ、上ノ国小児童は「よさこいソーラン節」の演舞を、河北小児童は「上ノ国町の紹介」、滝沢小児童は「豊漁太鼓」の力強い演奏をそれぞれしました。

交流記念品作りでは、プラン作り挑戦し、お互いの児童が相談しながら作品を仕上げていました。

上ノ国小学校PTAの皆さんが用意した上ノ国の食材を使った豚丼などの夕食を一緒にいただいたのちにお開きとなりましたが、お互いの児童は握手を交わすなど別れを惜しんでいました。

2日目は、江差町の開陽丸を見学するなどして、帰路につきました。

この相互の行き来を通じて児童同士の交流も深まり、充実した内容となりました。

かみのくにの 昔の建物を訪ねて

（神社編）



夷王山神社

と呼称されていましたが、明治26年に「夷王山神社」と社名を変更し、御祭神に武田信廣を加えています。本社は、普段拝観できませんが、文政2年（安政6年（1819～1859）の『笹浪氏諸留』に「間口三尺奥行三尺」（約90センチ×90センチ）の大きさであることが記録されています。

今回は、夷王山の山頂に所在する夷王山神社をご紹介します。

夷王山神社は、広報7月号でお知らせした砂館神社と同様、上ノ国三社の一つで藩主や家臣が最後に参拝するのが通例でした。神社が所在する山頂には、勝山館跡ガイダンス施設の駐車場脇から徒歩で上ることが出来ます。

神社の名称は、かつて「医王山頭陀寺」「医王山薬師堂」「醫王山神社」など

ビメ

【鳥居形状】明神鳥居である。笠木は、断面が五角形をしており、直線的に延びて端部でやや太くなる。